

事例報告書のまとめ方

2023年4月1日 認定審査会

1. 事例紹介

- ・年齢や性別、訪問リハを開始するに至った経緯などを記述 ・年齢は72歳の場合70代などと記述、又は70代前半などと記述すること
- ・発症起点などの年数はX年とし以後経過が分かるようにX+1年と記載
- ・病院名や地域など個人の特定につながる情報はイニシャルではなく、A病院・B病院など特定されないよう記載する
- ・当院、当事業所などはA病院、B事業所など特定されないよう記載する

2. 評価

- ・心身機能、活動、参加、個人因子や環境因子（本人家族の希望や価値観）について目標や方針に関わる項目を簡潔にまとめる
- ・評価は主観的にならないよう客観的な指標・データを用いる
- ・略語の使用は一般名を記入して以下略すことを記する 例:リハビリテーション(以下、リハ)
- ・英文略語は本文の最初に出てきた箇所で正式名称（フルスペル）の後ろに（括弧書き）で定義する 例: Life Space Assessment（以下、LSA）

3. 目標と介入

- ・評価をもとに記入する
- ・本人家族の希望、介護支援専門員の要望だけでなく、評価の結果必要と認めた項目を記入する

4. 経過又は結果

- ・訪問リハの介入により生じた結果・変化について記述する
- ・評価の際に取り上げた項目について経時的に示す
- ・考察の項で使用する材料として使用できるよう書き漏れのないよう注意する
- ・年数などの表記は事例紹介の項で示した通り

5. 考察・まとめ

- ・自身のアプローチを振り返り全体をまとめる
- ・効果が上がった点やそうでない介入を取り上げてその理由や改善策などに言及する
- ・より良いサービスのために気づいた点についてこれまでの文中から具体的に上げて示す

6. 全体を通して

- ・年齢、病院・施設、経年など個人特定に繋がる情報の匿名化を厳守する
- ・提出前に、可能な限り第三者の添削を受けるなどして、誤字脱字、不適切な文章表現はないか 十分確認する